

その愛は... 大きな喜びをくれる愛

i s e g n a l i b r i s

I Care 本のしおりにして一か月間生きるよう思い出しましょう。

ティアゴ  
ブラジル

ぼ

のクラスでは、だれもまじめに勉強しようとしません。ぼくは教室の後ろに座って、しゃべることもしないし、ほかのグループにも入らないようにしていました。悪い仲間にかかわりたくなかったからです。

ぼくのとなりにすわっている子の名前さえ知りませんでした。その子は携帯で遊ぶことしかしていませんでした。何日かしてぼくはクラスを変えたいと思いました。この環境に愛をもたらずなんて不可能のように思えました。

数か月後、隣に座っていた子は、ひどい犯罪を犯して刑務所に入ったと知りました。それはぼくにとってショックでした。ぼくにもその罪の責任があると感じました。彼をどんなにかして愛することができただろうに、他の生き方を示すこともできたのに、でもぼくはそう試みもしなかった。自分に負けてしまった。ぼくは自分でこう決心しました。「こうしたことはもう二度と起こしてはいけません」と。こうしてクラスメートに対して、「おはよう」とあいさつすることから始めて、新しい関係を築くようにし始めました。形だけのあいさつはなく、愛を感じられるように努めました。とても不思議なことでした。少しずつ何人かがこうやってきたのです。「『おはよう』と聞いてうれくなるよ。こんなふうに接してくれるのはおまえだけだよ。」今ではクラスメートのことを前よりずっとよく知るようになりました。小さなことから始めて、自分自身だけでなく、一緒にいる人の人生までも変えることができるのだと分かりました。



6

自分を本当にしあわせにしてくれるもののために全力を尽くす

ティアゴの経験を聞いてどう思った？

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。(マタイ28・20)

6

Da un commento di Chiara Lubich - Adattamento Centro Gen 3

**全** 世界に行つて福音を告げ知らせる使命を弟子たちにゆだねられた後、イエス様はこのみ言葉を語っておられます。弟子たちを派遣するのは、狼の群れに羊を送るようなものであり、彼らが反対や迫害にあつても、イエス様はよくご存じでした。それゆえイエス様は、宣教の使命を果たす弟子たちと共にいることを望まれ、まさに世を去られる時に、とどまる約束をされるのです。



どんな時も私の近くにいてくださるイエス様

**イ** エス様は、はんざつな日々の生活を送る私たち皆のことも、心にとめてくださいました。愛そのものが受肉された方イエス様は、「いつも人々と共にいて、あらゆる心配を分かち合い、アドバイスし、一緒に道を歩き、家に入り、共にいることで、彼らに再び喜びを与えたい」と思われたことでしょう。



すべての人たちのうちにイエス様を探しに行きます

**弟** 子たちに向けられたイエス様の最後の言葉であり、彼の地上での生活を締めくくるものです。同時に、教会の始まりを記すものでもあり、イエス様は多くの形をとって存在されます。ご聖体の中、み言葉の中、司教様や神父様の中、貧しい人、小さな人、疎外された人の中、そしてすべての隣人の中に、イエス様はおられます。



すべてをおおいかしすべてをゆるす愛

**イ** エス様がお命じになることを実践し、特に彼の新しい掟を生きるなら、私たちは教会の外にいても、多くの人々の間にいても、どこにいても、イエス様がおられるのを経験できるでしょう。私たちに求められているのは、相互の愛、兄弟に仕え、理解する愛、相手の苦しみ・心配・喜びを共に分かち合う愛です。